

環境目標と実績

■ 2010年度環境目的と環境目標

■ 2010年度全社環境目標の実績

理想科学は、2005年12月より全社環境目的・目標を設定し、全社で環境負荷の低減と環境マネジメントシステムの改善に取り組んでいます。

環境目的・目標は、達成状況の進捗を管理するとともに、必要に応じて達成レベルの見直しを行っています。2010年

3月に、5年後を見据えて全社環境目的・目標を大きく改訂しました。

2010年度の目標と実績ならびに2010年度以降の環境目的・目標は、右記の通りです。

■ CO₂排出量削減およびCO₂排出量原単位の低減

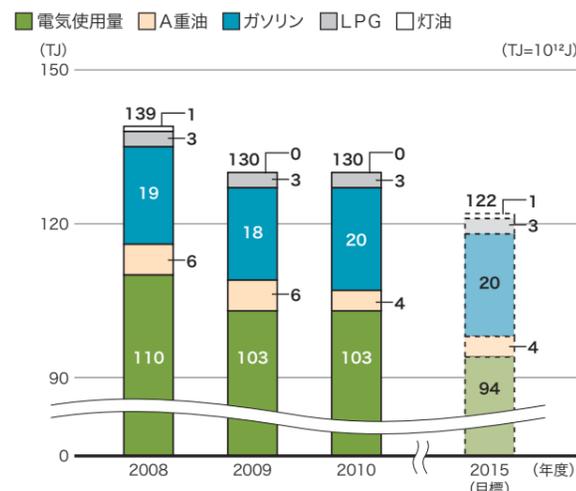
2010年度は、省エネ中長期計画に沿って、ボイラー、高圧変圧器の更新、遮熱塗装の実施、省エネ照明への切り替えなど省エネ・CO₂排出量削減に積極的に取り組みました。しかしながら、猛暑・厳寒の影響で、特に営業拠点の電気使用量が前年より大きく増加しました。あわせて売上高、生産量

が前年より減少したため、CO₂排出量削減およびCO₂排出量原単位の低減ともに目標を達成できませんでした。

2011年度は省電力、最大電力使用量の低減に重点を置き、継続して積極的な省エネ・CO₂排出量削減に取り組んでいきます。

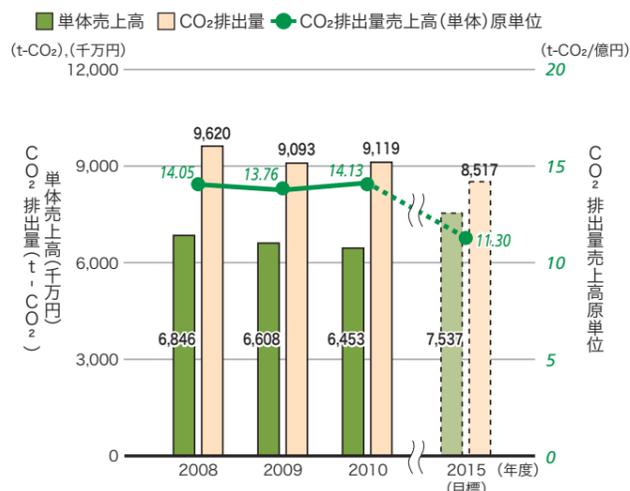
2011年3月に東日本大震災が発生し、電力供給が逼迫した状況を受け、省エネ中長期計画については、緊急の見直しを行い省電力に重点をおいて実行施策の変更や繰上げを実施しました。しかし、目標については変更せず、省エネ・CO₂削減に取り組んでいます。

全社(国内)のエネルギー使用量の内訳 (委託物流量は除く)



集計範囲: 理想科学単体国内全事業所のエネルギー使用量(委託物流量は含まず)

全社(国内)のCO₂排出量および売上高原単位



集計範囲: 国内全事業所のエネルギー使用量、社有車の燃料使用量、物流部所管の製品・サービスの物流委託量とそれらに伴うCO₂排出量。売上高は単体売上高

■ 2015年度 全社環境目的

CO₂排出量の削減 (2005年度比)

国内全体で

- CO₂排出量を15%削減する。
- CO₂排出量売上高原単位を20%改善する。

国内生産事業所合計で

- CO₂排出量を28%削減する。
- CO₂排出量総製造原価原単位を30%改善する。

エネルギー使用量(原油換算)の削減 (2005年度比)

国内全体(理想科学単体のみ)で

- エネルギー使用量を23%削減する。
- エネルギー使用量売上高原単位を30%改善する。

■ 2010年度環境目標と活動実績、および2011年度環境目標

	CO ₂ 排出量の削減 (2005年度比)		エネルギー使用量(原油換算)の削減 (2005年度比)
	国内全体	国内生産事業所合計	国内全体(理想科学単体のみ)
2010年度環境目標	①排出量12%削減 (8,807t-CO ₂ 以下) ②売上高原単位9%改善 (12.86t-CO ₂ /億円以下)	①排出量21.6%削減 (3,650t-CO ₂ 以下) ②総製造原価原単位*18%改善 (11.68t-CO ₂ /億円以下)	①使用量18%削減 (2,794kℓ以下) ②売上高原単位15%改善 (4.09kℓ/億円以下)
2010年度活動実績	①9.7%削減 (9,119t-CO ₂) ②1%改善 (14.13t-CO ₂ /億円)	①21%削減 (3,694t-CO ₂) ②7%改善 (13.30t-CO ₂ /億円)	①15%削減 (2,865kℓ) ②7%改善 (4.44 kℓ/億円)
評価	×	×	×
2011年度環境目標	①排出量10.1%削減 (9,080t-CO ₂ 以下) ②売上高原単位11%改善 (12.55t-CO ₂ /億円以下)	①排出量22.1%削減 (3,630t-CO ₂ 以下) ②総製造原価原単位*20%改善 (11.34t-CO ₂ /億円以下)	①使用量16%削減 (2,834kℓ以下) ②売上高原単位18%改善 (3.95kℓ/億円以下)

評価の凡例: ○達成 △未達成だが前年より改善 ×未達成

*総製造原価原単位には、当社の2010年度におけるすべての製品の製造原価が含まれています。

※地球温暖化防止以外の環境目標については、データブックに掲載しています。